

御部ダムだより

第2号
平成20年2月

御部ダム管理所

◇平成19年の管理状況

平成19年の御部ダムでは、冬季に降雪量が少なかったことや、3月から4月にかけての少雨により、貯水位が最低水位(標高89m)まで達する状況となりました。

このことから、通常は、発電に利用したものを維持流量として放流しているのですが、渇水対策として、発電を中止して流入量相当(維持流量に満たない量)を下流に流す措置を5月2日から6月22日の間行いました。また、9月以降、台風の上陸も少なく少雨であったことから、11月29日から12月4日の間、2回目の渇水対策をとりました。

一方、洪水については、洪水警戒体制を執った回数が15回と、過去の最多回数に並びました。洪水量(流入量120トン/秒)に達した回数は1回と、大きな被害となるような雨は少なかったものの、短時間に局所的な雨が降る状況が多い年であったように思います。

【解説】

維持流量とは、河川管理施設の保護、地下水位の維持、動植物の保護、河口閉塞及び塩害の防止、流水の清潔の保持、漁業、景観等を総合的に考慮し、渇水時において維持すべき流量として定められたものです。御部ダムの場合は、1.02トン/秒として設定されています。(根拠は、流域面積100k㎡あたり1.0トン/秒)

※ 御部ダムの流域(集水)面積は、102k㎡です。

◇ 渇水時(5月) この時期、雨が降らない状況が続くと、4~5日で貯水位が1m低下します。



◆ 洪水時(7月) 御部ダムは、ゲートのない自然調節式のダムです。



◇ダム湖(みやび湖)の状況及び利用

御部ダムでは、近年、春季と、秋季の一時期にかけて淡水赤潮が発生しています。

平成19年の場合は、3月27日から5月17日までと、10月1日から11月5日までの計2回発生し、春季からのものは、変色域(茶褐色)の範囲が少なかったですが、秋季に発生したものは相当広い範囲で確認されました。この淡水赤潮の発生については、日照時間、水温等、気象的要素や、窒素、リンなどの富栄養塩類が溜まってくる(富栄養化)現象等、さまざまな説はありますが特定できるものではありません。当ダムで一考できるものとしては水温であり、概ね15度から20度程度の水温で発生しています。

この状態は、一定期間のものであり、魚の斃死、異臭等、河川の環境を害する事象は発生していませんが、引き続き水質調査結果とも照らし合わせて注視すると共に、原因究明と対処方法について考察したいと思えます。

次に、ダム湖の利用についてですが、殆んどが魚釣りであり、平成19年の場合、延べの人数で481人、ピークであった平成12年の1,088人に比べれば半分以下となっていますが、最低の利用者数であった平成17年の384人からは若干の増加傾向にあります。

【解説】

淡水赤潮は、海域での「赤潮」と呼ばれる特定の植物性鞭毛虫類の大量発生現象と類似の現象が1972年頃から湖沼、貯水池に発生するようになり、淡水域に発生するものに名づけられました。(湖面変色の原因は、植物プランクトンの色素のため)
御部ダムの場合は、渦鞭毛虫類のPeridinium(ペリディウム)に属しているようです。また、貯水池の上流端付近で水の滞る場所に多く発生しているように思われます。

御部ダムの淡水赤潮の顕微鏡写真



水産技術センターで撮影(確認)

◇御部ダムからのご案内

御部ダムは、三隅町、(旧)弥栄村、美都町にまたがり、湖の名称を三町村の頭文字である「三、弥、美」を引用してみやび湖と名づけられています。

このダム湖の周辺には、キャンプ場、テニスコート、ゲートボール場、遊具等を整備した道猿坊公園のほか、各種の広場もあり散策して楽しめると思えます。

なかでも、桜の広場、桜の小路がお花見にはお奨めです。(ダム管理所付近に案内看板あり)

※ ダムに関する情報は、島根県河川課のホームページからもご覧いただけます。

インターネットアドレスは、<http://www.pref.shimane.lg.jp/kasen/>です。

編集後記

御部ダムは、平成2年のダム管理開始から20年近くになり、ダム設備も古くなったため、今年から諸設備の更新を順次行う予定です。

また、ダム管理施設の点検、整備を日頃から行い、万全の体制で梅雨、台風のシーズンを迎えられるように努力したいと思いますので、引き続きダム管理にご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

御部ダムや本紙に関するお問い合わせは下記へお願いします。

御部ダム管理所 TEL:0855-35-1421

浜田県土整備事務所管理第一グループ TEL:0855-29-5678